きずな部会参考資料

第３回　双葉町復興まちづくり委員会　きずな部会　議事概要

■日　時　：　平成２４年１２月１１日（火）　午後２時００分～午後３時３０分
■場　所　：　双葉町役場埼玉支所　４階　４－Ｃ
■出席者　：　別紙座席表のとおり
■議事概要
１．開会
２．議事
（１）新たなコミュニティの形成について（審議）
資料2、3、4に基づき、事務局、オブザーバーより説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

○　双葉町婦人会では、避難先の各地で相馬流山踊りを披露して好評を得ている。
○　仮設住宅では支援や催し物があるが、借上げ住宅ではそれが無く支援に差があると聞いている。借上げ住宅の方は慣れない避難先で孤立化しているという話を聞く。
○　双葉町生涯学習課では、郷土文化教室、婦人学級、健康生活学級、高齢者大学などを開催し、町民の方が参加し交流できる機会を提供している。
○　全国に避難している方の状況を把握しなければならない。避難者がどのように移動して、人口がどれ位で、どういう人が集まっているのか状況が分からなければ話は進まないと思う。
○　町民間でお互いどこに住んでいるのか分からない。守秘義務の問題で役場は住所・連絡先を教えられない。新電話帳などが、やはり必要だと思う。
○　伝統文化にしても、コミュニティにしても、「仮の町」が１ヶ所であれば話は早い。ところが、実際には分散型にならざるを得ないだろうということで難しい。
○　新たなコミュニティの形成にあたっては、避難の形態によって様々な手法はあると思うが避難者同士でコミュニケーションを図れるような場所が必要。町としては自治会組織の立ち上げについてバックアップしている。
○　行政には限界がある。行政と住民との協働によって、自治会活動を支える仕組みを作っていく必要がある。
○　災害によって、今までの常識が通用しなくなった。いわゆる「社会の歪み」の隠れた部分が顕在化した。今度は、そういった問題を逆に活かしていけば、もっと素晴らしい「絆（コミュニティ）」事業ができるのではないか。
○　何よりもまず町の方向性をきちっと決定してほしい。どこに行くかについ

ては、町民は案を持っている。

○ 自治会(行政区単位)を中心としたコミュニティばかりでなく、「双葉町 7000 人」を一つのコミュニティの単位とした新たな仕組みも必要なのではないか。

○ 何年も帰れないとなると、本当の双葉町は地図上から消滅するのではないか。いわきに行こうが、郡山・福島に行こうが、それはあくまで「仮の町」。はたして、人と人との絆を今後ずっと維持していけるのかと言ったら、それは難しい。

○ 当面、この町がバラバラになっている状況で、コミュニティを繋ぎ止めるためにどう維持するかという議論なら良いが、帰還が何十年先となった場合、たぶん、何もしなかったら町はなくなると思う。大熊町のアンケート調査でも、戻りたい人は全体の 2 割しかいない。双葉町民の考え方もこれと同じだろう。

○ 今後長きにわたり、避難先自治体の地域コミュニティに混ざって生活していった場合、そもそも「双葉町は何なんだ」というふうになる。極論すれば、もう双葉町のコミュニティは関係なくなる。

○ 「福幸」という言葉もあるが、福島県は英語で言えば「Happy Island」。幸せな島に帰るんだから、そういう目的で、人と人との絆で支え合って、助け合っていく必要がある。

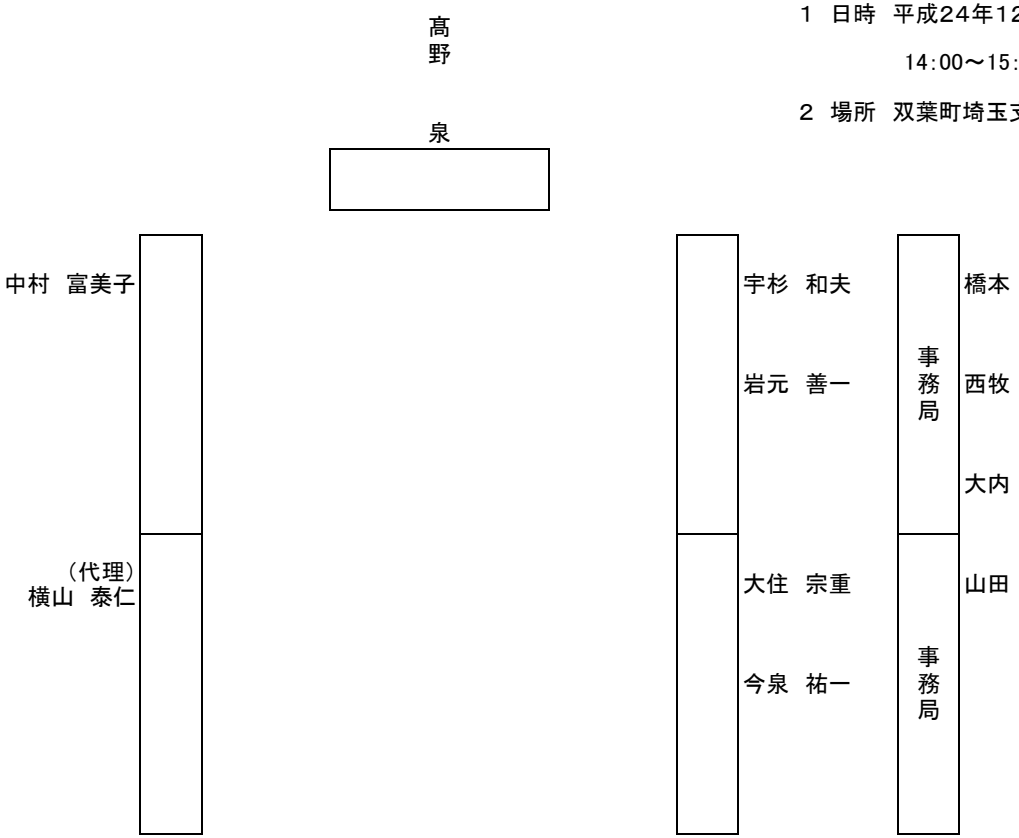
（2）その他

3．委員会

第3回きずな部会座席表

（敬称略）

1　日時　平成24年12月11日（火）

14:00～15:30

2　場所　双葉町埼玉支所　4階 4－C